

23日 水曜

使徒

26:1 アグリッパはパウロに向かって、「自分のことを話してよろしい」と言った。そこでパウロは、手を差し出して弁明し始めた。

26:2 「アグリッパ王よ。私がユダヤ人たちに訴えられているすべてのことについて、今日、王様の前で弁明できることを幸いに思います。

26:3 特に、王様はユダヤ人の慣習や問題に精通しておられます。ですから、どうか忍耐をもって、私の申し上げることをお聞きくださるよう、お願いいたします。

26:4 さて、初めから同胞の間で、またエルサレムで過ごしてきた、私の若いころからの生き方は、すべてのユダヤ人が知っています。

26:5 彼らは以前から私を知っているので、証言しようと思えばできますが、私は、私たちの宗教の中で最も厳格な派にしたがって、パリサイ人として生活してきました。

26:6 そして今、神が私たちの父祖たちに与えられた約束に望みを抱いているために、私はここに立って、さばかれています。

26:7 私たちの十二部族は、夜も昼も熱心に神に仕えながら、その約束のものを得たいと望んでいます。王よ。私はこの望みを抱いているために、ユダヤ人から訴えられているのです。

26:8 神が死者をよみがえらせるということを、あなたがたは、なぜ信じがたいこととお考えになるのでしょうか。

26:9 実は私自身も、ナザレ人イエスの名に対して、徹底して反対すべきであると考えていました。

26:10 そして、それをエルサレムで実行しました。祭司長たちから権限を受けた私は、多



くの聖徒たちを牢に閉じ込め、彼らが殺されるときには賛成の票を投じました。

26:11 そして、すべての会堂で、何度も彼らに罰を科し、御名を汚すことばを無理やり言わせ、彼らに対する激しい怒りに燃えて、ついには国外の町々にまで彼らを迫害して行きました。

26:12 このような次第で、私は祭司長たちから権限と委任を受けてダマスコへ向かいましたが、

パウロは弁明を始めました。弁明には証言者となってくれる人が必要ですが、パウロは生活の正しさに関しては多くの証があるので、それに事欠きませんでした。私たちも伝道のためにはそのように、非難されるところのない歩みや人間関係をする必要があります。

しかしまた、パウロは迫害者であることも証しています。もしも過去に問題があるなら、そこから立ち直った証と、それさえも益に変えてくださった神様の大きい恵を大胆に伝えましょう。

またそのような自分の人生を省みて、主に感謝しつつ証しを準備し、それが用いられるようにチャンスを自らつくり、そして主にゆだねつつ話しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

